

私が住んでいる Kirbathgoda (キリバッドゴダ) から大学まではバスで10分もかからない。ほぼ毎日バスで通っているが、最初はどのバスに乗ってよいかわからなかった。大学の先生方から138番のバスがよいと教えてもらったので、そのバスに乗って通っているが、これ以外にも利用できるバスは何種類もあるようだ。コロンボ行きのバスならばどれもよいようだが、どういう訳かいつも同じバスを使っている。同じバスなら安心ということもあり、また頻繁に出ているので、授業に遅れたりすることもない。

毎日乗っていて気がついたことがある。日本のSuicaのようなカードがあるわけではないので、毎回現金で払わなければならない。車内には運転手と車掌がいて、この車掌が料金を集めに来る。最初乗った時いくらなのか分からなかったので、尋ねたら10ルピーと言われたので、この金額で支払っていたが、ある時10ルピーを出したら1ルピーのお釣りをくれた。このようなことが何度かあった。「あれっ、本当は9ルピーなの(?!)」と思ったが、10ルピーなのか9ルピーなのかよくわからない。10ルピーは日本円で8円ほどなので、たいした額ではない。しかし、気持ちの上で本当はどっちなのかなあと思うことしきりである。

ある時細かいお金がなくて20ルピーを出したら、5ルピーしかお釣りをくれなかった。お釣りはと尋ねると、あわててもう5ルピーをよこしてきた。故意にこんなことをする乗務員もいるものだ。スリランカでは常にバスに乗る時は小銭の用意が必要である。こんなこともあった。バスではないが、スリーヴィラー(三輪タクシー)に乗り、降りる時お金を支払おうとしたら、乗るときに200ルピーと言われたので1000ルピーを出したが、運転手は「お釣りはないので、この次乗った時に支払ってくれればいい」と言うではないか。この次って一体いつになるか分からないし、しかも再度めぐり合うことはないかもしれない。このような鷹揚なスリランカ人もいるのですね(その後この運転手に会うことはなかった)。



街中を走る公共バス



バスの中。バスのフロントガラスの上にスリランカの神々が祀られている

一応バス停留場はある。都市部ならば、日本と同じように道路わきに表示板があり、ここがバスの乗り降りする場所だというのは分かる。しかし、日本のような行き先が表示されているわけでもなく時間も書かれているわけではない。

その上、頻りにやって来るバスには行き先はもちろん書かれているが、シンハラ語でしか書いてないバスがあり、こうなるとどこへ行くかは分からない。通常バスの前にはシンハラ語、英語、タミル語が書かれているので、英語を見て判断するが、スリランカのバスで便利なことが一つある。それはルート番号がバスに書かれていることで、ルート番号を見れば100%はどこ行きかが分かる。いつも138番のバスに乗ると前述したように、138番のバスに乗りさえすれば間違いなく大学前で停まるので、安心である。



スリーヴィラー (三輪タクシー)

もうひとつ気がついたことは、とにかくバスの運転手はスピードを出すことと運転が荒っぽいことである。乗った途端動き出し、危うく転びそうになったことが再三ある。降りる時も大変だ。普通後ろから乗り、前から降りるが、ゆっくり降りてなんかいられない。時折親切な乗務員がいて、乗る時や降りる時に手を貸してくれるので、安心して乗り降り出来ることもある。概して、乗務員は親切だ。外国人と分かると、降りる場所に近づいたあたりで、「もうすぐだ」とか「次だよ」等と教えてくれる。

乗務員の仕事ぶりはたいしたものである。バス停に止まると、絶えず「〇〇行き! 乗った! 乗った!」と大きな声で叫び、次から次へと客を呼び込んでいる。また、バスが止まっている間も客をバスに誘導し、自分はバスが動き出してから乗り込む。ドアは空いたままなので、乗務員が落ちやしないかどうかハラハラして見ている。しかし、慣れたもので、うまい具合に中に入り、中ではキップを切り、料金を徴収している。

バスの前と後ろのドアは常に開けっぱなしである。これもかなり危険だ。乗客はバス停以外のところから結構乗ったり、降りたりしている。私から見るとずいぶん危ないような気がするが、これはかなり多い。サリーを着た女性が乗り降りする時は、足元の裾がドアにからまったりすることがあり、注意が必要だ。

私はなるべく前の方に座ることにしているが、運転手のすぐ後ろの座席に座るときは注意が必要である。というのは、この席には“Reserved for Clergymen”と窓ガラスに掲示がある。つまり僧侶のための席である。空いてれば座る人は多いが、時折お

坊さんが乗ってくると座っている人は席を譲らなければならぬ。お坊さんはお金を払うのかどうか興味があり、しばしば観察している。お坊さんがお金を払おうとすると、車掌は要りませんと受け取らない場合ともう最初からでんで払わないお坊さんもいる。時には料金を受け取る車掌もいることはいる。

バスの話ばかりになってしまったが、最後にバスの中から街を見ていて気がつくことに物乞いの姿を見かけることである。頻繁には見かけないが、いつも通る道に毎日同じ物乞いがいて、目の見えない人や片足のない人が座っている。私はあげることはしないが、こちらの人はよく10ルピーとか20ルピーをあげていて、いやいやながらというよりは当然のこととしているようだ。宗教的な背景があるのかもしれない。かつて旅行したことのあるインドと比べると、物乞いの姿は非常に少ないし、その上纏わりつくようなしつこい態度をとることは全くない。スリランカの物乞いは大人しい。しかし、お金を恵んでもらったからといってお礼を述べることは一切ない。この点はインドの物乞いも同じだったような気がする。

(続く)

～スリランカに日本語教師として滞在中の為我井氏よりのお誘い～ **スリランカ旅行に参加しませんか**

‘わりい’の皆様、今年の夏はスリランカへいらしませんか。暑い時期に暑いところ行くのも面白いかと思えます。

時期としては、7月下旬から8月にかけての1週間ほどと考えていますが、ご要望があればもう少し長くすることも可能です。訪問地は、コロンボ、キャンディ、ポロンナルワ、アヌラダプーラ、ヌワラエリア、ゴール等の世界遺産地、そして可能ならばサファリツアーも加えたいと思います。

メインは、次のとおりです。

- コロンボからヌワラエリアまで列車の旅
- 紅茶園見学
- 4～5か所の世界遺産地を見学

費用は22万円程度を考えていますが、人数によっては多少の変動もありますので、ご承知おきください。ご希望があれば何でもお寄せください。

申し込み締め切りは5月初旬とします。

- ご要望とお問い合わせ：

為我井輝忠 tamegai1014@yahoo.co.jp